

和名：ミカンキジラミ

学名：*Diaphorina citri* Kuwayama

英名：Asian citrus psyllid

分布

東南アジア、東アジア、南アジア、西アジア、モーリシャス、レユニオン、メキシコ、アメリカ、中南米、大洋州等（我が国では奄美大島以南）

寄主植物

ミカン科植物（カンキツ属、ゲッキツ属）の生植物（種子及び果実を除く。）

形態

成虫は体長3～4mmで黄褐色。口針を持ち、前翅は透明で褐色の斑紋があり、外縁部は褐色の帯となる。卵はアーモンド型で長さ約0.3mm、幅0.1mm。基部の柄で植物体に固定されている。産卵直後は黄色、後に橙色となる。幼虫は楕円形、終齢で体長1～2mm。

生態

卵は寄主植物の柔らかな新梢に産まれる。ふ化幼虫は新梢を吸汁し発育する。若齢幼虫は集合し、あまり動かない。老熟幼虫は新梢に加え硬化した枝も吸汁する。幼虫は甘露やひも状のろう物質を排出する。発育ゼロ点と有効積算温量は卵世代で13.7℃と46.9日度、幼虫世代（1～5齢）で11.6℃と192.3日度である。成虫は、新梢や葉を吸汁するが、葉裏に止まっているところをよく発見される。頭部を葉に近づけ、腹部を斜め上に持ち上げる独特の姿勢をとる。雌成虫は25℃で約50日生存し、総産卵数は748卵である。休眠性を持たず、年間を通じて発生を繰り返す。

被害

主な被害はカンキツグリーンング病を媒介することによってもたらされる。それに加え、幼虫、成虫の激しい吸汁は、落葉や落果を起こす。また、幼虫は高密度ですす病を引き起こす。



図1 ミカンキジラミ（成虫）



図2 ミカンキジラミ（幼虫）